

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立関特別支援学校

学校番号	113
------	-----

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で生きていくために必要な知識・技能を身に付ける。(知識・技能) ・自ら考え、自分の思いや考えを表現する。(思考力・判断力・表現力) ・自ら学び、仲間と共に高め合える。(学びに向かう力・人間性)
--------	---

【小学部】

評価する領域・分野	教育活動	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部の教育活動に関して概ね高評価であった。 ・特別支援学校の教育に関して比較対象がなく、よく分からない、我が子にもっと適切な活動があるのではないかと、などの思いをもっている保護者がいる。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①ヒヤリハット事例の共有により安全・安心に生活できる環境を作り、関係機関と連携して健康に過ごすとともに、繰り返しの学習による基本的生活習慣の形成を図る。 ②児童の興味・関心を喚起するよう体験的な活動の充実を図り、自分の思いや考えを身近な大人を支えにして表現できる状況づくりの推進。 ③個々の実態を的確に捉え、児童が「やりたい」「楽しい」と期待が持てる活動や学習集団の工夫に努める。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、グループ等で児童の情報を共有し、個に応じた支援を組織的に行うようにする。 ・学習グループ等において教師間で児童の実態を把握し情報共有する。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ①ヒヤリハット事例を教員間で共有したり、学校や家庭での様子や健康状態を共有したりして安全に十分配慮しながら活動する。 ②活動の中で、児童が自分で選択して取り組む場面を設定することで、自分の思いを伝える機会を増やす。児童の様子をきめ細かく把握し、教員間で情報共有する。 ③ICT 機器等を積極的に活用した授業づくりと活動保障、グループ等の課題別の学習を有効に活用する。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ①児童の情報を保護者や関係機関と共有し、適切な支援体制がとれているか。 ②児童が自分で選択する場面や思いを伝える環境を設定した授業づくりを行っているか。 ③児童が主体的に取り組めるように教材・教具の工夫など配慮しているか。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ①ヒヤリハットの迅速な報告と共有、ヒヤリハットにつながりそうなことの情報交換 ②選択肢の提示、気持ちの代弁、教師の支援後の児童の表情の読み取りと共有 ③視線入力、棒スイッチ、支援アプリ等の ICT 機器を活用した授業 	
評価の視点	中間評価	
①児童の情報共有をもとに、適切な支援体制がとれているか。	A (B) C D	
②児童の自己選択・自己決定を大切に授業づくりを行っているか。	A (B) C D	
③児童が主体的に取り組める教材・教具の工夫をしているか。	A (B) C D	
成果・課題 ※「取組状況・実践内容等」「評価の観点」に対応して記入する	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ①○職員間で様々な場面で情報共有し、大切なポイントを押さえながら活動できた。 ▲欠席が多い児童について丁寧に情報収集を行うとよい。 ②○学校生活全般を通して児童が選択する活動を取り入れたり、記録を活用したりできた。 ▲「活動あって学びなし」とならないよう、授業づくりを工夫していけるとよい。 ③○掲示物、具体物、ICT 機器など、児童の実態に合わせて教材教具、学習環境を工夫できた。 ▲学習成果の振り返り、教材教具の紹介・共有などで、他の職員に手法を広げたいとよい。 	A (B) C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数減少とそれに伴う職員数の減少に関わらず、児童にとって充実した学習になるよう、教材教具、学習グループ、学習環境などの工夫や新たなアイデアを出し合い、実践、評価、改善をしていく。 ・Teams の活用や勤務時間内の業務の優先順位を考え、より充実した情報共有を行えるようにする。 	

【中学部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	・保護者からは、いじめなどの項目で「わからない」の回答が少数あったが、学校生活において教師が連携し、生徒の安全に配慮した活動を設定できていた。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 個に応じた適切な方法を取り入れながら、基本的な生活習慣や社会生活に必要な知識技能を育てる。 2 個の発達段階等に合わせて、表現方法の課題を設定したり、促したりしてコミュニケーション能力を育てる。 3 仲間と関わる活動を通してお互いを認め合い、自己肯定感（自己受容感）を高め、仲間を尊重する気持ちや態度を育てる。
重点目標を達成するための校内組織体制	・類型、学年、部会等で生徒の情報を共有し、個に応じた支援を組織で行う。 ・保護者や保健室等との連携を密にとる。 ・外部の支援機関と連携し、必要に応じて支援会議などを行う。
目標の達成に必要な具体的な取組	1 類型会等で、教師一人一人が意見を出し合い、生徒の実態把握、学習内容、学習課題及び評価を行う。家庭と連携し、保護者と教員間で情報共有の徹底する。 2 生徒が自分の思いを表現できる場面を設定し、サイン、イラストカード、タブレット等を活用したりして表現できるような環境を作る。 3 活動方法を工夫した仲間と関わる活動を設定する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	1 生徒の情報を共有し、互いに意見を出し合い、適切な支援を共通して行うことができたか。 2 生徒の興味・関心を引き出したり、学習効果を高めたり、主体的に取り組めるように教材・教具の工夫ができたか。 3 生徒同士で互いに認め合う姿がみられたか。仲間と関わる活動の設定を職員間で話し合うことができたか。
取組状況・実践内容等	1 部全体で類型の垣根を越えて、授業や給食の担当など生徒を見る体制づくりができた。 2 生徒のできたこと、良いことをその場で称賛し、活動への意欲につなげることができた。 3 音楽の授業、クリスマス会、学校祭のステージなど仲間とかかわる場の設定が工夫できた。
評価の視点	中間評価
① 生徒の情報を共有し、互いに意見を出し合い、適切な支援を共通して行うことができたか。	A (B) C D
② 生徒の興味・関心を引き出したり、学習効果を高めたり、主体的に取り組めるように教材・教具の工夫ができたか。	A (B) C D
③ 仲間と関わる活動の設定を職員間で話し合うことができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
① ○類型を超えて職員配置を行い、どのタイプの生徒にもかかわりをもつことができた。 ○次年度に向けて意見を交わし、今からできることを積極的に中学部から発信し、取り組むことができている。(リズムランニング、卒業生を送る会) ② ○意思表示のサインやイラストの視覚支援等、生徒が主体的に学校生活を過ごしていけるように教材づくりや環境設定、支援をすることができた。 ③ ○中学部の生徒同士がかかわる活動の場の設定を積極的に提案し、授業を実施することができた。(夏祭り、クリスマス会、音楽の授業、自立活動など) その他 教員が楽しく仕事をするのが生徒の楽しさにもつながると考え、楽しい環境をみんなで作ることができた。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・生徒の実態や成長の度合いを考慮し、計画からより授業を系統だてて行う。

【高等部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	学校評価アンケートでは、「わからない」と回答した保護者が一定数おり、今後は保護者との情報公開や共有をさらに行っていく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の進路意識を高め、教員間で授業や行事の共通理解を十分行った上で生徒の進路実現に向けた授業や行事を実践する。 2 生徒が主体的に取り組めるような具体的な課題を設定し、生徒自身自分の考えや思いを積極的に表現できるようにする。 3 生徒相互のコミュニケーションを大切にし、協働的に課題に取り組むことを通じ自立のために必要な力を育む。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学級、類型会、学年会、学部会での生徒の情報を共有、連携する。 ・必要に応じて、校内・校外と連携した支援会議を行う。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 講習会や授業等で進路意識を高め、生徒自身が進路目標を決める支援をする。個々の進路に必要な学力、体力、技術を職員間で共有し、進路実現に向けて生徒に課題を提示する。 2 ICT 機器の応用的な使い方を習得し、生徒にとってさらに分かりやすく興味をもって授業に臨める工夫をする。 3 学習の場を学年、類型、学部全体など工夫し、意見を交流できる場や協力し合っ活動する場を設定する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で情報を共有し、生徒に支援することができたか。 ・ICT 等を活用するなど生徒が授業に興味関心をもつことができたか。 ・仲間との係わりを楽しみや期待感をもつことができたか。
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> 1 進路体験実習・校内作業実習の事前学習では、職業調べや目標決め、心構え・注意点の確認ができた。卒業後に必要な力について教員間で情報共有をし、進路実現に向けて保護者と連携した。 2 授業でタブレット端末等の ICT 機器を多くの場面で使用した。MetaMoJi や PowerPoint 等での教材提示等を行うことで、生徒の興味関心を引き出し主体的に活動できる授業を実施することができた。 3 学校行事や生徒会活動等では中心となって活動し、生徒一人一人が役割を持ち、自分の仕事をやり抜く力をつけることができた。類型、学部、他類型、他学部の仲間を意識してお互いに協力したりコミュニケーションをとったりする姿が見られた。中部学院大学との交流を楽しんで行うことができた。
評価の視点	中間評価
① 生徒の実態に合わせ、進路実現に向けた授業を実践できたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
② 生徒が主体的に取り組めるような具体的な課題を設定することができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
③ 生徒相互が、協働的に課題に取り組むことを通じ自立のために必要な力を育む。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
成果・課題	総合評価
<ol style="list-style-type: none"> ① ○進路学習を通して個々が見通しをもって事業所見学や進路実習に積極的に行うことができた。○進路実習で付けた力を普通の授業の中でも価値をつけて自己肯定感を高めることができた。○卒業後に必要になる力を教員間で共有し指導支援をすることができた。○進路決定に向けて担任、進路担当、保護者が連携することができた。 ▲見学や実習での課題を作業学習や教科等の授業でも取り組む。 ② ○個々の課題を教員間で話し合い、授業に活かすことができた。○MetaMoJi や PowerPoint 等を使い、生徒が興味関心を持ち楽しめる活動や生徒が主体的に取り組むことができる課題の設定を教員間で相談し、共有することができた。 ③ ○様々な行事において中心的な役割を担い、他学部や他類型の仲間とも関わって、積極的に活動に参加することができた。○役割分担をし、仲間の活動の様子を見たり順番を待ったりして一つのことを仲間と共にやり遂げることができた。○学校祭や宿泊、修学旅行などの行事において他クラスの仲間や大学生と関わる場を設定することで、生徒が他者を受け入れ、自らコミュニケーションを取る姿が見られた。 	A <input checked="" type="radio"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・進路学習を授業等にも取り入れ、生徒の進路意識をさらに高めていく。 ・生徒が主体的に取り組むことができるような ICT 機器の活用を進めていく。 ・生徒、職員の減少が見込まれるため、職員の欠席や出張で指導が手薄になるときは部や学校全体で協力していけるとよい。

【教務部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	・特色ある教育活動がわかりにくかった。交流などの活動も含め保護者にもわかりやすく提示できるとよい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	◎「指導と評価の年間計画」「個別の指導計画」を中心とした PDCA の活性化 1 「個別の指導計画」に基づいた適切な目標設定とその評価及び、「指導と評価の年間計画」の PDCA サイクルの展開による一人一人に応じた学習支援の充実 2 実態に適した ICT 等の活用も含んだ、特別支援学校、なかでも肢体不自由と病弱の専門性を踏まえた上での授業力向上
重点目標を達成するための校内組織体制	1-①児童生徒の学びの履歴及び教職員の授業改善(授業を考える材料・引継ぎ文書)につなげる単元シート(「指導と評価の年間計画」の一部)の作成と活用) 1-②研修を通じた各児童生徒の自立活動の中心的な課題の設定及びその共通理解 2 単元シート活用と研修での児童生徒の実態把握の両輪による授業づくり
目標の達成に必要な具体的取組	1 目標設定とその共通理解及び授業づくりのための類型会等での単元シートの活用 ・教育内容に基づいた視点での実態把握と目標設定に至る手続きの明確化 ・単元シートの活用による授業改善及び教員間の共通認識の活性化 2 日々の授業に活用できる研修内容及び研修体制づくり ・児童生徒の適切な目標設定に繋がる実態把握の力を高める研修の充実 ・ICT 機器の活用拡大のための、活用例の共有化
達成度の判断・判定基準あるいは指標	1 単元シートを活用した類型会等での目標設定、授業改善、評価ができたか。 2 研修を通して、児童生徒の実態把握を深めることができたか。 また、それを生かした授業実践ができたか。
取組状況・実践内容等	1 ・自立活動の中心的な課題に迫れるように OT, PT, ST 相談がしやすい環境整備に取り組むことができた 2 ・校内研修を通して、児童生徒の行動を事実と解釈から分析し、実態把握や児童生徒理解を深めることができた ・職員間で児童生徒をテーマに対話を積み重ね、自由に意見を述べ合う関係性の構築に努めることができた ・ICT 機器を使用した授業実践を Teams で紹介して活用例を共有したり安全に機器が使用できるように管理運営について整備したりすることができた ・児童生徒の学びを深めるための図書館整備に取り組むことができた
評価の視点	中間評価
① 「単元シート」(「指導と評価の年間計画」の一部)の作成及び活用ができたか	A B <input checked="" type="radio"/> C D
② 研修を活かした実態把握及び授業実践ができたか	A <input checked="" type="radio"/> B C D
成果・課題	総合評価
・学校課題に対して職員の対話をもとに次年度に向けたイメージを作りながら計画に反映する取り組みができた。また、児童生徒の具体的な姿をもとに解釈ができるように実践交流を繰り返し取り組むことができた。 ・授業づくりにつなげるツールである単元シートの活用については部によって活用の偏りが出ている(教務部として全体に強く使用を呼びかけることは行っていない)。今後は児童生徒の実態から授業づくりまでつなげていけるように以下の4点に今後取り組んでいく。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	①少人数でも「つながり」「かかわり」の視点から類型や学年、部、学校を超えた学びができるように、小中高の授業時間割を工夫したり年間計画に位置付けたり個別の指導計画の内容に取り入れたりする。 ②専門部を教務内に立ち上げ、学校の課題に柔軟に対応できるように研修の日、学年の日、類型の日を活用して授業づくりにつなげる。 ③新しい時代の中で生きていく児童生徒を見据え、情報教育の推進を行う。 ④OT, PT 相談の仕組みを変更し、前年度の引継ぎだけでなく担当した教員団で児童生徒を見立て教育的な視点から「からだ」や「かだい」の時間が設定できるようにする。

【キャリア支援部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学部が上がるにつれ、進路が身近なものとなっていることがわかる。 ・小学部段階では、卒業後の姿が想像しにくいと思われる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎個々のニーズや家庭状況等に応じた進路支援の推進。 ◎新様式での「個別の教育・移行支援計画」の立案と活用の推進。関係機関等との連携を図った継続した校内支援、校外支援の充実。 ◎関係諸機関と連携した円滑な移行支援、卒業生への継続的な支援の推進。
重点目標を達成するための校内組織体制	分掌内の各係担当窓口とした取り組みの発信・改善策及び対応 各学部・分掌内情報共有
目標の達成に必要な具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 本人・保護者や関係諸機関等との連携により個々のニーズに応じた実習や見学の計画・実施。様々な障がい種に対応した進路開拓の情報収集と情報発信。 2 保護者との連携・情報発信、進路行事への参加の呼びかけ、移行支援会議の実施、関係諸機関との連携、卒業生支援の継続。 3 校務支援システム新様式での個別の教育支援計画の作成及びその調整。 4 ニーズをふまえた研修会やつながる会（地域連携協働会議）、居住地校交流、訓練参観等の実施。次年度の児童生徒数、職員数の減少を見越した運営。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部に発達段階に応じたキャリア支援に関する行事の開催、情報を発信し、各ニーズに応じて必要な情報を伝えることができたか。 ・進路決定に向けて、ニーズに応じて見学や実習など具体的な取組が行えたか。 ・地域や校内のニーズに応じた支援が実施できたか。
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> 1 進路の手引きや進路だより（STEP UP）の配付と情報発信。中学部、高等部の進路体験実習、地域実習（市役所訪問や事業所見学）の実施。 2 家庭と担任が密に連携しながら、ニーズに応じた情報提供や事業所・企業の見学、実習を計画・実施した。 3 校務支援システム新様式での個別の教育支援計画について、新規の作成要項に従い作成及び活用を行った。 4 ニーズを踏まえた参集型の研修会やつながる会（地域連携協働会議）、訪問交流を含めた居住地校交流、訓練参観等を実施した。
評価の視点	評 価
① 各学部において保護者や関係諸機関等と連携しながら個々のニーズに応じたキャリア支援が実施できているか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
② 地域や校内のニーズを踏まえた支援ができていますか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
成果・課題	総合評価
<ol style="list-style-type: none"> ① ○事業所説明会や地域実習等の進路行事では、前年度より生徒・保護者の参加が増え進路への関心の高さが伺えた。 ●本人や家庭、学校、関係諸機関と連携し、進路決定と進路先へのスムーズな移行につなげる。 ② ○研修会、つながる会（地域連携協働会議）及び訪問支援等、地域や校内のニーズに応じて支援を実施した。新様式での教育支援計画の作成手順や記載方法（評価を含む）、次年度以降の研修会の実施方法について検討できた。 	A <input checked="" type="radio"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌と協力しながら、進路行事の企画・実施や進路支援に努める。 ・移行支援計画の活用について他校の情報も得ながら、検討していく。 ・インクルーシブ教育システム構築事業費消耗品に関して今年度のうちに来年度の必要物品を計画する。

【生徒支援部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめをゆるさない関係づくり ・お互いに認め合い尊重し合える関係づくり
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣や望ましい生活態度を育てる。 2 学校生活全般を通して集団的、自治的、文化的力量を高め、好ましい人間関係の育成を図る。 3 家庭や関係機関と連携し、思いやりのある心を育てる。 4 不審者に適切に対応する力を育てる。 5 SB の共同運行（サービス等の下校を含む）を安全かつ計画的に行う。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当を中心に、他の校内組織や外部の関係機関と連携する。 ・寄宿舎との連携（主に防犯・SB）
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒向けの研修（薬物乱用・消費生活・情報モラル・SOS の出し方）を実施する。 2 人権教育の推進（ニコニコの木の作成）、児童生徒会活動の充実（学校行事や全校集会の全校取り組み企画の計画と実施）、MS リーダーズ活動の充実、文化的活動の推進に取り組む。 3 SC 面接、教育相談研修、いじめ等のアンケートを実施する。 4 警察と連携した不審者対応訓練を実施する。 5 事務部、寄宿舎、中濃特支、清流高等特支、添乗員、運転手との連携、校外学習等の SB の運行計画と実施学年との連携を行う。また、下校時のサービス利用が安全に行われるよう、キャリア支援部と各サービス事業所と連携する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が安全に安心して、主体的に学校生活を営むことができたか。
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒向けの研修（SOS の出し方、薬物乱用）を実施することができた。 2 生徒会を中心に全校集会やニコニコの木の作成を実施し、人間関係の形成の育成に取り組むことができた。また、MS リーダーズ活動も挨拶運動を実施することができた。 3 心のアンケートや SC 面談から、児童生徒の悩みを理解し、対応することができた。 4 警察と連携して不審者対応訓練を実施することができた。 5 関係者とコミュニケーションを取りながら SB を運行することができた。 6 新規の放課後等デイサービス事業所に対して、送迎についての説明をキャリア支援部と連携して行うことができた。
評価の視点	評 価
①基本的な生活習慣に関わる取り組みは適切であったか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
②自主性、自立の育成に関わる取り組みは適切であったか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
③児童生徒理解と信頼関係を築くための取り組みは適切であったか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
④防犯、安全に関わる取り組みは適切であったか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
⑤スクールバスの共同運行が、安全かつ円滑に行うことができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
成果・課題	総合評価
<ol style="list-style-type: none"> ①○高等部を中心に外部人材を活用して、指導を行うことができた。 ②○委員会や生徒会活動を中心に児童生徒が主体的に活動を進めていくことができた。 ▲児童生徒の減少や障害の重度重複化により、今までと同様な取り組みを行うことが難しくなっている。 ③○児童生徒への対応に関係者同士協力し合って取り組むことができた。 ④○関係機関と連携して、有意義な研修をすることができた。 ⑤○中濃特支や、岐阜清流高等特支、バス会社と連携して安全にバスを運行することができた。 	A <input checked="" type="radio"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動を中心に生徒支援部で行う取り組みについて、児童生徒の実態や人数に合った内容に変えていく。

【保健安全部】

評価する領域・分野	保健・安全	
現状及びアンケートの結果分析等	・防災について物品を含めた避難体制について検討している。学校医や看護師等と連携して児童生徒の健康の保持増進と安全教育に継続して努めていく。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 児童生徒の健康の維持増進と安全教育の推進に努める (医療的ケア、摂食支援) 2 防災を含め、安全安心な環境整備や施設管理に努める	
重点目標を達成するための校内組織体制	1 医療的ケア：保護者や主治医・指導医・管理職との連携、看護師と教員の協力体制、各検討会での綿密な検討 摂食支援：摂食コーディネーターを中心とした摂食研修、ST・OTと連携 2 施設管理・防災：事務や管理職との連携、外部講師との職員研修会	
目標の達成に必要な具体的取組	1 ・看護師間の情報共有と緊急時対応に向けた研修を実施 ・医療的ケア時の教員の見守りと体調確認 ・摂食研修会での基礎知識の習得とチームでの個別支援検討 2 ・コロナ禍明けの安全なプール活動の推進と安全点検等での校内施設管理 ・校内の災害時避難体制づくりと災害時の障がい者支援の考察	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	1 医療的ケアや摂食支援について関係者間で情報共有し、児童生徒の健康保持や安全教育に努めたか。 2 安全で充実したプール活動の実施、災害時避難体制づくりができたか	
取組状況・実践内容等	1 ・医療的ケアについては、看護師間の情報共有を密に行い、看護師間や教員とのダブルチェックを強化した。 ・摂食の実態表を活用し、摂食研修会やST相談等で個々の支援について話し合いができるようにした。 2 ・命を守る訓練、防災研修を実施し、避難体制を整えるとともに教員の意識を高めた。必要な準備、設備の見直し。 ・プールの設備管理を行い、水泳指導研修会を実施。	
評価の視点		評 価
① ・校外学習を含め日常的な医療的ケアの安心・安全な実施ができたか。		A (B) C D
・職員の摂食支援への意識を高め、児童生徒の摂食支援に取り組めたか。		A (B) C D
② 本校の防災体制、環境整備が整い、訓練が実施できたか。		A (B) C D
成果・課題		総合評価
① ○機器管理等をダブルチェックすることで、安全に医ケアを行うことができた。 ○外部看護師が修学旅行に同行し、保護者なしで活動することができた。 ○クラス内で摂食支援の共通理解をし、安全な摂食ができています。 ▲来年度の少人数の教員で対応できるよう、教員の摂食支援への意識を高めスキルを維持できるように教員同士で情報交換や相談できるようにする。 ② ○校内の避難体制の整備と様々な方法で訓練の実施ができた。 ▲避難時の安全確保と避難生活も視野に入れた、防災計画をたてる。		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・少ない人数でも教師間で相談しながら業務をこなせる体制づくりをする。 ・児童生徒の摂食の実態表を個別支援計画の別様式として保存していきたい。 ・防災については、当校における避難継続計画をたて、必要な体制づくりや物品を検討し、準備する。	

【渉外部】

評価する領域・分野	PTA 活動・同窓会	
現状及びアンケートの結果分析等		
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>1 PTA 及び同窓会と学校が協力、連携し、PTA 役員会と各委員会や同窓会活動を通して、PTA 会員や同窓生のつながりを深めることができる PTA 活動及び同窓会活動になるよう、支援する。</p> <p>2 今後会員が減少する PTA 活動及び同窓会の在り方を各役員と共に検討し、改編や活動内容の精選ができるよう支援する。</p>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<p>1 渉外部会、PTA 執行部会・役員会、同窓会役員会</p> <p>2 渉外部会、PTA 執行部会・役員会、同窓会役員会</p>	
目標の達成に必要な具体的な取組	<p>1 つながりが深められる活動や今後の改編や活動精選について役員間で活発な意見交流ができるような役員会の運営をしたり、具体的な提案をしたりして支援する。</p> <p>2 役員会で具体的に検討をする。</p>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>・PTA 活動及び同窓会活動が保護者や同窓会役員を中心とした話し合いによって、充実したものになったか。そのための連携・協力ができたか。</p>	
取組状況・実践内容等	<p>1 ・PTA 施設見学、卒業生保護者との交流会、さんざし祭 PTA 企画、PTA 交流会などを行うことができた。</p> <p>・二十歳を祝う会や定期総会に向けて、同窓会役員とメールで綿密な打ち合わせを行って会を実施することができた。</p> <p>2 ・役員会で検討後、PTA 会員にアンケートを実施して、来年度以降の PTA の組織改編を行った。(規約の改正も行った)</p> <p>・広報委員会で検討し、PTA 広報誌「さんざし」を廃止した。また、広報委員会の提案を受け学校で検討し、長期休暇の前に児童生徒の活動写真を「すぐー」で配信した。</p> <p>・PTA 役員会や執行部会の実施回数の検討を行った。</p> <p>・11月の同窓会定期総会集終了後に、会長、副会長を中心に来年度の計画を考えることができた。</p> <p>・来年度から同窓会通信の郵送は行わず、当校のホームページに掲載することが決定した。また役員会を廃止し、メールで連絡を取り合い業務の周知をした。</p> <p>・職員の業務内容の精選を行った。(学校行事の案内状送付先の厳選、礼状の送付を廃止し HP 掲載、PTA 会員名簿を作成しない等)</p>	
評価の視点		評 価
① PTA 会員や同窓生のつながりを深めることができる PTA 活動及び同窓会活動になるよう支援することができるか。		A (B) C D
② PTA 活動及び同窓会の在り方を各役員と共に検討し、改編や活動内容の精選ができているか。		A (B) C D
成果・課題		総合評価
<p>① ・PTA 活動で大切にしたいことを本部役員で共有し、そのための活動を計画・実施した。</p> <p>・二十歳を祝う会では、PTA 本部役員と同窓会の役員が協力して実施することができた。中部学院との協働学習があり、会を盛り上げることができた。</p> <p>② ・来年度に向けて PTA 組織の改編を行い、来年度の PTA 行事について検討することができた。(PTA 役員会の実施回数や PTA 会員が集まる機会について検討した)</p> <p>▲同窓会定期総会の参加者が少ない。総会の在り方を検討していく必要がある。</p>		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<p>・PTA 活動の目的の共通理解をはかり、保護者の負担の無いように、目的に合った活動を行う。また、新しい PTA 組織がスタートする。PTA 行事については、R7年度の参加人数をふまえて、R8年度以降の計画をたてていく。</p> <p>・同窓会定期総会の在り方を考えていく。</p> <p>・PTA や同窓会の会員数減少をふまえ、それぞれの活動の在り方や業務内容を引き続き検討していく。</p>	

【舎務部】

評価する領域・分野	寄宿舎教育
現状及びアンケートの結果分析等	・舎生 1 人のため、指導員との関わりを大事にしながら基本的な生活自立や社会性などを身につけていく。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 自分の身体を知り、心身ともに健康な生活を送る。 2 興味・関心を持ち、自分の思いや考えを表現する。 3 物や人に関わりながら、好きなことを増やし意欲的に生活できる。
重点目標を達成するための校内組織体制	・個別支援計画を基に指導員全員で同じ目標に向かい、色々な手だてを探りながら支援し、記録を基に日々引継ぎや話し合いを行っていく。 ・保護者、OT、ST や学級担任をはじめ類型の先生方と連携を取りながら支援を行う。
目標の達成に必要な具体的な取組	1 保護者や関係の先生方と日ごろから密に連携を取り、心身の状態を把握する。 ・舎生が安心、安全に生活できるよう環境づくりや支援の工夫をする。 2 舎生にとって必要な力とは何かを指導員間で共通理解を図り、日々の生活の中で状況に合わせた支援に取り組む。 ・自分の気持ちを表出し、人に伝えることができるよう意識して支援する。 3 舎生活全般や、舎生会活動などを通し、経験を増やしていく。 ・舎生が意欲的に取り組むことができるよう支援の工夫をする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	1 舎生が健康面に留意し、安心、安全に生活を送ることができるよう、関係機関と連携し環境づくりができたか。 2 舎生が自発的な選択行動や自己表現できるよう、個別の支援計画を基に指導員間で共通理解を図り支援に取り組むことができたか。 3 舎生が意欲的に生活できるよう、支援の工夫ができたか。
取組状況・実践内容等	1 関係機関と連携して訓練や活動を行い、舎生の安心、安全に努めた。 2 話し合いの機会を多くもち、指導員間の共通理解を図り支援に臨んだ。 3 余暇活動や行事の内容を舎生の実態に合わせて工夫して行った。
評価の視点	評 価
① 舎生が健康面に留意し、安全で安心した生活を送れるよう、環境づくりや支援の工夫ができたか。	A (B) C D
② 舎生が必要な力をつけることができるよう、指導員間で共通理解を図り支援に取り組んだか。	A (B) C D
③ 舎生が意欲的に生活することができるよう、支援の工夫ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
① ・保護者や学級担任と情報共有し、共通理解しながら支援することができた。 ・食育指導、保健指導、ST 相談等では関係の先生方と連携し、環境づくりや支援に生かすことができた。 ② ・日々の連絡会や研修会等で支援について全員で話し合い、共通理解を図ることができた。 ・舎生が自分の思いや考えを表現できるよう、個別の指導計画に基づく統一した支援を継続的に行うことができた。 ③ ・舎生が意欲的に取り組めるような様々な新しい経験を提供することができた。 ・舎生が楽しんで参加できるよう、実態に合わせて行事内容を工夫することができた。	A (B) C D

学校関係者評価（令和7年2月6日実施）

- ・概ね良好、子どもも充実しているが、それでも伝えたいことや保護者のニーズと学校が提示していることのずれがある。保護者にイメージできるようにするとよい。
- ・児童生徒との信頼関係については、エピソードがあればかかってもらえる。取り組んでいるとは思いますが、もう少しエピソードを見せられるとよい。
- ・児童生徒のトラブルに関して、どう対応するか意思決定支援という点で、どう意思を引き出すかが課題。
- ・実際に校内を参観することで学校の様子がわかる。そういう機会を増やしてほしい。
- ・生徒からのアンケート内容が最も大切。
- ・全体的に評価が高いのは、先生方の教育への熱意と創意工夫、苦勞の賜物。
- ・小さな声を拾い上げて、検証、改善を繰り返しながら今後よりよい結果になることを望んでいる。